

# 島九条の会通信

TEL・FAX 058-231-5293

## 「日本国憲法公布 77 周年記念 2023 ぎふ平和のつどい」に集いましょう

今年の講演は、望月衣塑子（ジャーナリスト）さんと白井 聡（政治学者）さんです。お二人の対談もあります

公演と対談のテーマは「なぜ戦争への準備なのか～平和への道を探る」

入場料は、1200 円（前売り 1000 円）※学生・障害者は無料

日時は、11 月 3 日（金・祝日） 13 時 30 分から 16 時ごろまで

場所は、岐阜市民会館・大ホール

※今年のつどいは、当日清算券がありません。なるべく前売り券をお求めください。なお、前売り券は島9でも扱っています。

— 詳しくは、同封のチラシをご覧ください —

## 第 6 4 回例会の報告 「檻の中のライオン」講演会

8 月 11 日西部コミセンで、広島の椋（はんどう）大樹弁護士による「檻の中のライオン」講演会が行われました（主催は岐阜西・岐北・さぎ山ときわ・島・早田各九条の会、岐阜北民商）。連日の猛暑にもかかわらず、予想以上の 50 人を超える参加者がありました。およそ 2 時間半の長い講演でしたが、椋さんの「名調子」が時間を忘れさせました。全ては紹介しきれませんので、いくつか印象に残った点を以下報告します。（同名・同著者の本があり、分かりやすいそうです）

### 檻とは何か、ライオンとは何か？



憲法は誰が守らなければいけないか。それは国民なのか政府なのか？ 小学校では、最高法規であり国民みんなが守らねばならないと教えるが、それは違う。憲法を守る義務を先ず負うのは、政府（天皇・国務大臣・国会議員・裁判官その他の公務員）だ（日本国憲法 99 条）。つまり暴れると困る、油断するとすぐ暴れる政府（ライオン）を、憲法という檻に閉じ込めておこうというわけだ。

### 憲法の文言を変えなくても、解釈を変えて仕舞えば……

安倍政権は、本来日本国憲法の下では行使できないとされていた集団的自衛権を、「戦争法」によって行使できるとしてしまった。確かに故安倍首相は憲法の文言は変えなかったが（彼は護憲派？）、解釈を変えて実質的に

「改憲」した。これは大きな問題で「ライオン」が「檻」を強引に広げ、ところどころ穴を開け、檻を破り始めてしまった。

### ライオンを元の檻に戻す方法は？

憲法は選挙で檻に戻せと言っている。選挙で国民に危害を加えたライオン（政府与党）の議席を奪えばよいわけだ。ところが近年、国民は選挙のたびにライオンの横暴を許してしまっている。

もう一つの方法は、三権分立の原則による裁判所による違憲審査だ。しかしこれは、政府の「違憲行為」によって具体定な被害がないと裁判所は違憲審査をせず、ハードルが高い。さらにもう一つライオンに檻を破らせない方



法を、今度は政府ではなく国民に求めている。12条の「この憲法が国民に保障する自由及び権利は、国民の不断の努力によって、これを保持しなければならない」だ。

たとえ条文を変えなくても自由に暴れたいライオン（政府）は、「戦争法」のように解釈を変えて「檻」を破ってしまう。だからこそ憲法は国民に、自由や権利を「不断の努力」によって守れ、行動せよと言っている。行動の仕方は色々だ、デモや集会に出なくても自分のできることをすればよい。誰かと政治（憲法）の話をするだけでもいい。もちろん憲法を守る政策を掲げる政党に投票するのはよい。

### 教育の場で憲法はどう教えられているか

憲法は国民みんなが守るもの、三権分立は国家の分担の仕組みなど、義務教育では憲法（立憲主義）が正しく教えられていない。憲法は国民みんなが守るものでなくライオン（政府）を閉じ込めて、国民の自由や権利を守るための檻だということをお教えるべきだ。それがやがて国民一人一人が「不断の努力」をすることにつながる。（以上です）

## エッセイ

### ある日の岐阜新聞見出しから

田中 良

少し前になるが、岐阜新聞1面トップに大見出しで「殺傷兵器輸出容認・自公」とあり、これは強烈なインパクトがあった。

考えてみれば「武器」というものはたいがい殺傷兵器なんだから、あたりまえの表現なんだけどこの記事は確かに耳目を引き寄せた。当節は「防衛装備移転」などという言葉でゴマ化して人目を引かないようにしている。

ところで「容認」とするからには、誰かが「自公」に認めてほしいと言ってるのだろうが、政府は国民が選り国民の意思によって行政を執行する機関である。では、国民は殺傷兵器を製造して外国に輸出し、人殺しをやってほしいと願っているのだろうか？ 私はそういう日本国民に会ったことがない。

となると、輸出の容認を願っているのは「死の商人」と言われる軍需産業以外考えられない。外国で人殺しが行われれば殺傷兵器の需要が増え、商品が売れに売れて大儲けができるのは明らかだが、これを国会で通すのに陰で巨額の政治献金が行われているのである。

こんな当たり前の話に紙幅を用いるのは気が引けるのだが、つい見過ごしになる日常の新聞の見出しから国民主権について考えてみたくなったのである。

選挙当日まで、この当たり前の理屈を覚えていたいものである。

## 映画のご案内とりあえず二つ

まず一つ目は、『教育と愛国』（ドキュメンタリー）です

日時 9月30日（土） 10時・14時 場所 メディアコスモス 参加費 1000円（詳しくは別紙チラシで）

『映像 '17 教育と愛国～教科書で何が起きているのか』で2017年度ギャラクシー大賞（その年のドキュメンタリー番組で民放・NHKを問わず最も優れた作品に贈られる賞）を受賞した毎日放送制作の番組に、その後の取材を加えたドキュメンタリー映画です。安倍政権下の教育政策は？ それを押し付けられた教育現場は？ 教育が時の政権に振り回され、窒息させられていくさまを描いています。監督はTV番組のディレクターでもあった：齊加 尚代さんです。

二つ目は、『福田村事件』（劇映画）です

10月に柳ヶ瀬のCINEX【シネックス】で上映予定（上映の日程・入場料などはCINEXに問い合わせを）

100年前の関東大震災の後、千葉県の福田村（現野田市）で、利根川を渡るためにやって来た香川県からの薬の行商人一行15名が、香川県の方言がよくわからなかった地元の人々に、朝鮮人だと疑われ9人が虐殺された事件をドラマ化したものです。最近この映画の監督：森達也氏がメディアでこの映画について語っています。危機的な状況の中で普通の人々がどんな行動をしてしまうのか（この地震の直後に起きた軍や警察も絡んだ朝鮮人虐殺の問題につながります）、わたしたちに鋭い問いを投げかける映画です。

「サロン9条」へのお誘い（ぎふ九条の会が毎月第4火曜日の午後開いています）

テーマ 「有害物質(PFAS)汚染水問題をめぐって」（各務原基地近くの水源がPFASに汚染されていたことについて）

話題提供：三戸光則さん（九条の会・各務原）

日時 9月26日（火） 午後2:00～4:00

場所 日本キリスト教会岐阜教会 2F会議室 問い合わせ先 090-2688-5284（青木）